

和歌山生協病院

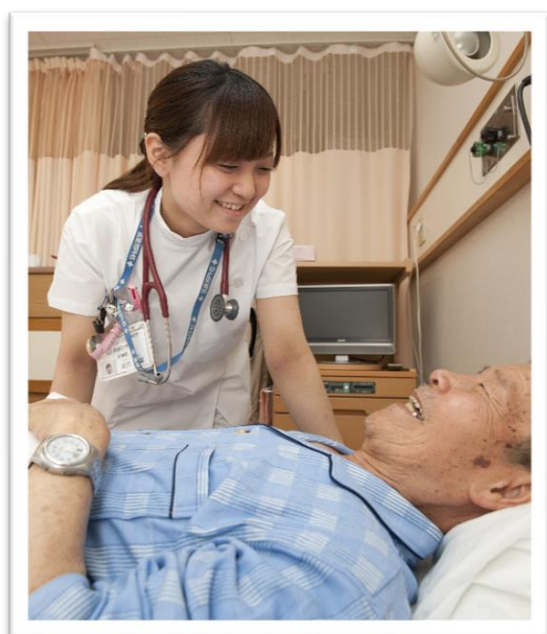
臨床研修

募集案内



医療福祉生協連

地域密着、 患者さんに近い病院



目次

病院の説明・・・・・・・・・・	1-2p
研修の特徴・・・・・・・・・・	3-4p
研修スケジュールなど・・・・	5-6p
研修医のメッセージなど・・・・	7-8p
指導医のメッセージなど・・・・	9-10p
研修医募集要項、アクセス・・・・	11p



1952年の大水害を契機に、地域住民がお金を出し合って志ある医師とともに診療所を開設したことから、和歌山生協病院のあゆみが始まりました。地域の住民がつくった地域のための病院です。

病院長挨拶

高齢社会を迎え、地域医療実践する上でのキーワードは連携です。医療と介護の連携、1次、2次医療機関と3次医療機関との連携がなくては医療が成り立たなくなります。

当院の役割は1次、2次医療機能です。高齢者は複数の疾患を抱えていますが、疾患ごとに専門医にかかることはできません。地域医療を行うためには、総合的な力量をもった医師が慢性疾患の治療を行う必要があります。生協病院の医師養成方針は、気管支喘息、感染症、肝炎、COPD、心不全、

消化器疾患、脳血管障害などのcommon diseaseに対応できる総合医づくりです。中小病院であるからこそcommon disease研修の場に適していると言えます。プライマリケアを学びたい方の研修参加をお待ちしています。

病院長 古田 光明



病院概略

病床	一般149床（地域包括ケア病床44床、回復期リハビリ病棟43床）
診療科	内科、外科、小児科、循環器内科、消化器内科、大腸・肛門外科、呼吸器内科 神経内科、糖尿病内科、放射線科、アレルギー科、リハビリテーション科、リウマチ科、 腎臓内科（人工透析）、麻酔科
患者数	外来188.2人/日、入院130.1人/日、救急9.5人/日、在宅医療管理患者175人/月
常勤医師	内科13人（指導医8人）、外科2人（指導医2人）、小児科1人（指導医1人）
検査装置	全身用ヘリカルCT、MRI、眼底カメラ、超音波断層装置（腹部・心臓）、スパイロ 一般撮影、造影透視用レントゲン放射線
内視鏡	胃、大腸、膵胆管、気管支
生理	神経筋電図、脳波、睡眠機能
治療	血液透析、吸着療法、血漿交換
外科手術	消化器、乳腺、胸部、肛門

■ 理念

いつでも、どこでも誰かが安心できる よりよい医療と福祉をめざします。

■ 基本方針

- ◇私たちは非営利・協同の組織です。
- ◇人権を守り、共同の営みの医療と福祉をすすめます。
- ◇保健・医療・福祉（介護）の地域連携をすすめ、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます。
- ◇専門職としての力量を高め、安心、安全を追求します。
- ◇地域まるごと健康づくりをすすめます。
- ◇憲法と平和を守り、医療・福祉制度を良くする運動に取り組めます。



■ 当院の特徴

差額ベッド代を徴収しない病院

和歌山生協病院が加盟する、全日本民主医療機関連合会（民医連）は、常に無差別平等の医療を実践してきました。その取り組みの一つが「差額ベッド代は徴収しない」ことです。

無料・低額診療事業を実施

低所得者に対しては、無料又は低額で受診できる「無料低額診療事業(※)」を行なっています。
※社会福祉法第2条3項に基づき、経済的理由により適切な医療等を受けられない人が安心してよい医療を受けられるため、無料又は低額で診療を行う事業です。



民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。

私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。

私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療、介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

■ 研修理念

人権を尊重し、安全・安心の医療・介護を担う医師養成を行います。

医師臨床研修のうち初期研修の2年間は、将来の専門科にかかわらず医師としての基本的臨床能力を身につける期間です。私たちの医療機関は、「患者中心の医療」を掲げ、地域住民の要求で作られ地域住民の参加による運営を行う歴史を持っており、医療を提供するだけでなく健康を守りそのために社会に働きかけるプライマリ・ヘルス・ケアを実践してきました。将来地域の患者・住民に求められる臨床医となることを目指して以下の3点を位置づけます。

- ①患者の「疾患」から出発するのではなく、「訴え」から出発し問題解決を目指し、専門分野という枠にとられない「総合性」
- ②病棟だけでなく地域を研修の場として位置付け、保健や介護・福祉の分野にも習熟し、患者を全人的に捉える「総合性」
- ③医師の役割として単に治療者としてだけではなく、マネジメント能力、他の医療スタッフとのコミュニケーション能力、社会で求められる役割を学ぶという「総合性」



■ 基本方針

当病院の他に医師養成経験の豊富な協力型臨床研修病院、臨床研修協力施設で研修病院群を形成し統一した研修プログラムに基づき研修を実施します。基本研修ではcommon diseaseを中心とした豊富な症例を受け持つことで「基本研修科目

の到達目標」で掲げている研修目標を達成させます。必修分野、選択分野をローテーションしながら、将来の志望科にかかわらず、臨床医として求められる基本的診療能力を身につけることをめざします。



■ 臨床研修目標

「主治医力」を身につけ、地域医療に貢献できる医師に

- ①地域と臨床の場で経験し必要とされる機会の多い、基本的診療能力(知識・技能・態度・総合的判断力)を獲得する。
- ②患者中心の医療を実践し、患者を全人的に診ることができる医師を養成する。
- ③医療と社会の結びつきとSDH(健康の社会的決定要因)を理解し、地域のすべての患者・住民の人権を守り、健康と幸福を追求する医療チームの一員としての素養を養う。
- ④医学・医療の進歩・発展に応じ学習を進め成長する姿勢を培う。



■ 基本姿勢

- ①研修医が健康的に研修できる環境を保障します(給与、労働時間、休暇を保障)。
- ②研修医がひとりで診療することがないよう、十分なバックアップ体制を作ります。
- ③研修指導は総合病棟指導医・副指導医を中心にを行うが、他の医師・他職種も含め病院全体で研修医を育てます。
- ④患者さんに絶対迷惑をかけない、患者さんを不安にさせないようにします。
- ⑤一人一人の患者さんを大切に、全人的(医学的・心理的・社会的・倫理的)に捉え問題解決にあたります。
- ⑥治療方針・研修指導方針の意思決定は指導医・他職種も含め集団で行ないます。
- ⑦自己および集団での学習を進め医療内容の標準化を目指します。
- ⑧研修医もスタッフも弱音の吐ける環境を作ります。
- ⑨研修医個々の到達に合わせ段階的に研修を進めます。
- ⑩病棟のみで完結せず、常に地域(communitiy)に依拠した研修を心がけます。
- ⑪一人の社会人としての常識と自覚を身につけるようにします(あいさつ、身だしなみ、時間・約束を守るなど)。



研修医振り返り会議



地元小学校での健康講座



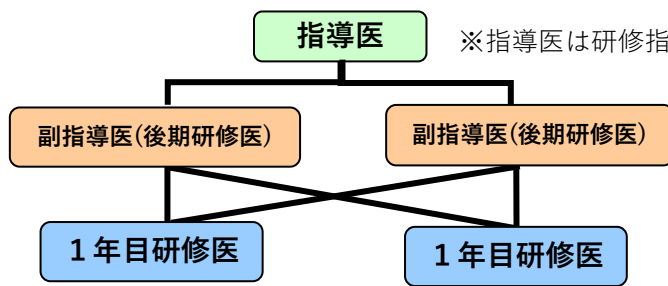
地域の方々とお花見会



医学生向けOSCE講座

研修指導体制

■「屋根瓦方式」の研修指導体制



※指導医は研修指導に集中できるよう、業務上の保証を行う。

総合研修中は「屋根瓦方式」の研修指導体制をとる。7年以上の臨床経験を持つ医師が指導医となり、3～6年目の医師が副指導医となる。

研修医とそれに対応する3～4名のスタッフ医師でチームを作り診療に当たる。

■ 週間スケジュール

		月	火	水	木	金	土
朝	7:30			抄読会			
AM		病棟	病棟	病棟	腹部エコー	病棟 3階新患CF	①③⑤ 勤務
PM		2階新患CF 2階総回診	病棟	3階総回診	病棟 振り返り		
夕	17:00		研修委員会 など		医局会など	研修医症例 CF	

■ 年間スケジュール

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
研修科目	内科						救急				外科	小児科
当直研修			21時まで (同時コール・週1回)			副直 (同時コール・週1回)				当直 (ファーストコール・週1回) * 小児科研修中は無し		
外来研修			外来見学・退院患者フォロー・新患診察									
検査研修			検査見学			腹部エコー・CT読影 (週1回)						
評価					医療面接	中間総括	OSCE	CPC	医療面接	近畿症例発表会		年度総括

■ 研修ローテーション例

※なお、一年次4月上旬はオリエンテーションとなります。

1 年次	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	オリ	内科				
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
	救急 (4週は麻酔科研修でも可とする) (基幹型及び協力型病院)			外科 (基幹型及び協力型病院)		小児科 (協力型病院)
2 年次	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	小児科 (協力型病院)	産婦人科 (協力型病院)		精神科 (協力型病院)	地域医療	
	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
	選択研修 (基幹型及び協力型病院)					

- ・1年以上は基幹型臨床研修病院で研修を行う。
- ・研修開始2週間はオリエンテーションを行う。
- ・基本研修の期間中に必修分野として、26週の内科研修（オリエンテーション2週含む）、12週の救急部門研修、8週の外科研修、8週の小児科研修、6週の産婦人科研修、6週の前科研修、8週の前域医療研修を行う。地域医療研修は当初の1年後に行う。
- ・選択研修として、内科系の選択科目（ICU、

内科総合、循環器、呼吸器、消化器、腎臓、糖尿病、神経内科）の各分野とリハビリテーション科、整形外科、胸部外科、泌尿器科、麻酔科、眼科、皮膚科、病理科を組み合わせで合計30週の研修をおこなう。

- ・一般外来研修をブロック研修または並行研修により4週以上行う。

研修施設

■ 臨床研修指定病院(協力型)

京都民医連中央病院(京都)、西淀病院(大阪)、耳原総合病院(大阪)、尼崎医療生協病院(兵庫)、土庫病院(奈良)、吉田病院(奈良)

■ 臨床研修協力施設(診療所)

和歌山生協病院附属診療所、生協こども診療所、河西診療所、生協芦原診療所

■ 民医連臨床研修ネットワーク



■ 和歌山県内基幹型臨床研修指定病院

和歌山県立医科大学附属病院、和歌山労災病院、日本赤十字社和歌山医療センター、橋本市民病院、国保日高総合病院、紀南病院、南和歌山医療センター、新宮市立医療センター

【基幹型病院】

耳原総合病院
西淀病院
京都民医連中央病院
土庫病院
尼崎医療生協病院
和歌山生協病院

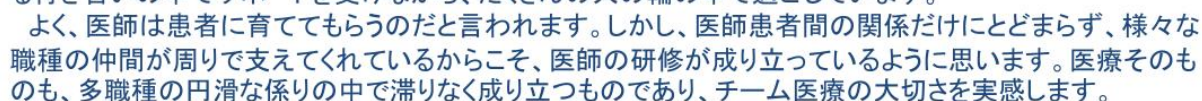
【協力型病院】

京都民医連第二中央病院
京都協立病院
京都第一赤十字病院
京都府立医科大学附属病院
東神戸病院
吉祥院病院
吉田病院（精神科）
神戸協同病院
コープおおさか病院
東大阪生協病院
和歌山労災病院
おかたに病院

■ 和歌山研修ネットワーク



- 大学病院を含む県内全ての基幹型臨床研修病院で研修可能
- ・必修部分を除く期間の研修病院、診療科を自由に選択できます。
- ・病院によっては必修部分の選択も可能な場合があります。
- ・厚生労働省のルールとして、研修期間2年間のうち通算12ヶ月以上は原則採用病院で研修する必要があります。
- 3カ月ごとにローテーション科を1カ月単位で選択可能
- ・採用4ヶ月目以降、3ヶ月毎にローテーション科を1ヶ月単位で選択できます。
- ・採用病院を除き、同じ病院での研修は連続して3ヶ月までとなります。
- 研修医支援体制の充実
- ・採用病院のプログラム責任者が、到達目標を達成できるよう責任を持って、助言、指導、サポートを行います。
- ・採用病院以外で研修中も所属は採用病院のままなので、研修先変更に伴う手続きは最小限で済みます。給与は2年間を通じ、採用病院から支払われます。
- ・採用病院以外での研修中宿舎は研修先病院が相談に乗ります。



■後期研修医より

患者さんとの厚い信頼関係

私は初期研修から和歌山生協病院で研修しています。

この病院の魅力は、

1. アットホームな雰囲気
 2. 自由度の高いオーダーメイドな研修
 3. 患者さんとの距離感の近さ
 4. サポートしてくれる多職種
 5. 熱心な指導医
 6. 外部講師を招いての勉強会
 7. 豊富なプライマリケアの症例、
- などかと思います。

当院には、長年通院してきた患者さんや病院に関わってきた医療生協の組合員さんという

方々がいらっしゃいます。私が入職したのも、組合員さんから「うちの病院の先生になって」と言われた事がきっかけでした。また、初期研修医時代は体力的・精神的にしんどいこともありましたが、ある日院内を歩いていると、入院していた末期癌の患者さんから、「先生は私達で育てていくから！がんばって！」と励まされ、乗り越えることができました。

患者さんとの厚い信頼関係がこの病院にはあります。ぜひ、一緒に働きましょう☆



院長の『心電図道場』



■初期研修医より

内科を、まるごと!!

主治医として患者さんを担当し、直接に入院する原因となった疾患だけでなく、関節リウマチ、糖尿病などの依存症についても管理することになるため、領域別の垣根を越えたスキルが身に付きます。

一つの医局なので、どの医師にもコンサルしやすいですし、

他の部署のスタッフとの垣根も低いです。

また、研修ネットワークを利用して外の病院のプログラムを『いいとこどり』できるという利点もあります。フットワークが軽い人には向いていると思います。

患者さんを、まるごと!!

入院から退院後まで、主治医として診察、検査、治療にあたるので、主体的に動けるようになります。

退院後の生活やその背景まで考えて、患者さんの支援にも積極的にかかわります。



ICLS講座



研修医症例発表会

■プライマリケアの研修は地域の第一線医療の現場でこそ得られる

当院の研修の特徴は、総合性とチーム医療、地域医療です。研修医は、患者さんに一定の責任を持った立場で診療します。その中で、①患者さんの抱える問題点を明確にし、チーム医療の一員として問題解決に当たること②家族や地域の状況も考慮し、急性期から在宅医療までマネジメントできる能力が獲得できます。

もう一つの特徴は、最初の6ヶ月は総合内科でじっくりと基礎を固めることです。その後、和歌山県と民医連の2つのネットワークを活かし、高次医療機関での研修も選択出来ます。

研修の到達を上げるには、プロセスが重要です。先輩医師から学び、指導医との対話の中で学習が深められます。中小規模だからこそ、指導医やスタッフとの距離が近く、一人一人の到達に応じた指導が行えます。指導医

の熱意はどこにも負けないと自負しています。大病院での各科ローテートでは得られない、プライマリヘルスケアの研修、患者さんを中心とした医療の研修ができます。

また、研修医が一人で悩まない工夫として、メンターによる面談を行い、月に1度指導医とともに研修到達を確認しつつ進めていきます。

厚生労働省による初期臨床研修の目標は、医師としての人格の涵養と、医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、プライマリケアの基本的な診療能力（態度・技能・知識）を身に付けることとされています。第一線の地域の病院での研修こそが、医師としての人格の涵養・態度の研修にふさわしいと考えます。



■人生の中で最も濃密な時間、しっかりささえ、ともに成長する

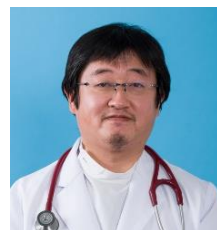
医師人生を歩み始めたばかりの研修医を、一人前に育てたいと思って指導にあたっています。

当院では、どっしり「腰」を据えて最初から最後まで患者さんを見続けることのできるプログラムを準備しています。熱い「ハート」で患者さんに寄り添いながら、常に謙虚な姿勢で医師として、人として何ができるかをぜひ学んでください。

研修で経験し乗り越え、身に付けていただくべきポイントを簡単に説明します。まずは医学的な知識、技術の獲得で、経験豊富な先輩医師から技術を盗む「目」、急変や患者さんの状態の変化にいち早く気づく「鼻」、どういう状態なのか聴き取る「耳」、それらを組み立て推論する「頭」を鍛えていただきたいと思います。

す。患者さんへの十分な説明をできる「口」も必要です。確かな技術に裏付けされた「腕」も磨いていただきたいですし、フットワーク「足」の軽さも必要になります。

初期研修の2年間は、人生の中でも、最も濃密な時間になると思います。しんどくなる時もあると思いますが、指導医としてしっかりささえながら、ともに成長していきたいと考えています。



医療現場を
体感しよう！

研修医体験コース

1日目	病棟診察 外来見学、往診見学
2日目	病棟診察 症例検討

和歌山民医連では、和歌山生協病院を中心に急性期医療から在宅往診まで地域に根ざした幅広い医療を展開しています。病院見学・実習においても、患者さんや地域の方々、スタッフとともに行う地域医療を肌で感じることができます。

参加した医学生の感想

(医学部6年)

* 患者さんからどのような情報を聞き取っておくべきか、鑑別診断は何を根拠に絞っていくのかなど学んだ。

* 症例検討では身に付けるべき思考、論理の組み立て方を学ぶことができた。

お問い合わせ

和歌山民医連 医学生センター
〒641-001和歌山市紀三井寺811-5

TEL : 073-441-5090

医学生担当：田伏・林

E-mail : center.s.s@au.com

または

和歌山生協病院 医局

研修事務担当：木津

TEL(代表) : 073-471-7711

E-mail : kizui@waseikyo.com



楽しむ 学ぶ 結ぶ 体験する

地域に根ざした学びをバックアップ

医学生奨学金制度 のご案内

未来への挑戦を応援します。

和歌山民医連では将来、和歌山民医連加盟の事業所で働く意欲のある学生を対象に奨学金制度を設け、経済的な援助とともに、学生時代から幅広い視野で人間性豊かな医師として成長できるよう応援しています。

対象

医科大学・大学医学部に在籍する医学生

※学生支援機構など公的な奨学金制度との併用可

金額
(月額)

1・2年生 50,000円

3・4年生 60,000円

5・6年生 70,000円

別途、増額コースあり。

民医連
とは…

民医連は、無差別・平等の
医療と福祉の実現を目指す組織です。

戦後の飢餓と伝染病が蔓延するなか、献身的な医療従事者と地域の人々が力をあわせ、医療にめぐまれない人々のための、地域住民のための、医療の手の届かない地域の診療所が各地につくられました。民医連はこれらの連合体として1953年に結成されました。それから約半世紀、地域の人々が切実にもとめる医療にとりくみ、人権をまもるために社会保障充実の運動をすすめ、災害医療、環境改善などの社会問題や戦争政策に反対する立場から平和のとりにくみにも力を入れてきました。

現在、142の病院をはじめ、全国に1800をこえる施設(診療所・薬局・訪問看護ステーションなど)をもち日本でも最大級の連合体となっています。



和歌山生協病院 研修医募集要項

募集定員	3名
修了後進路	引き続き当院医師として後期研修可。外部研修可。
待遇等	身分：和歌山生協病院常勤職員 給与：1年次 409,000円 2年次 429,000円 賞与（目安）：712,000円/年 1,047,000円/年 手当：副直・当直手当、扶養手当、住宅手当、交通費 勤務時間：8時30分より16時45分まで 休暇：有給休暇4週6休、夏季・年末年始休暇、結婚休暇 生理休暇、産前産後休暇 等 時間外勤務：指導医が必要と認めた場合に行う。 当直：研修開始6ヵ月後から指導医と共に担当する。 保険：公的医療保険、公的年金保険、労災保険、雇用保険 医師賠償責任保険：適応有 健康管理：定期健康診断（年2回） 福利厚生施設：院内保育所 学会補助：学会費、学会参加費、交通費、出張手当 等
選考方法	面接、医療面接、小論文
応募先	和歌山生協病院医局事務課 〒640-8390 和歌山県和歌山市有本143-1 電話（代表）：073-471-7711 E-mail：wa-seikyo-kensyu@jtw.zaq.ne.jp 応募必要書類：卒業見込証明書（卒業証明書）、履歴書

■和歌山生協病院へのアクセス

- ▶JR阪和線「紀伊中ノ島」駅から、東へ徒歩で約11分
- ▶JR「和歌山」駅 東側出口から、北へ徒歩で約22分

「新大阪」駅からは、和歌山方面に特急『くろしお』号が運行しています。
大阪環状線からは、「天王寺」を經由して、阪和線への直通列車も運行しています。

